

水痘ワクチン定期接種化前後の任意接種勧奨

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

1. はじめに

水痘ワクチンは、2014年10月に任意接種のワクチンから定期接種のワクチンに切り替わる予定であるが、この際に生じうる様々な状況を想定し、それに対する対応について日本小児科学会予防接種・感染対策委員会の見解を示す。

2. 水痘ワクチンの基本的な接種方法

- 接種回数：2回接種を基本とする
- 接種時期：
 - 1回目 生後12～15か月
 - 2回目 13歳未満では1回目から3か月以上あける
13歳以上では、4週間以上あける（文献1）
- 接種方法：皮下接種

3. 現在検討されている水痘ワクチンの定期接種スケジュール

- 接種回数：2回接種
- 接種時期：
 - 1歳から3歳未満の児：初回接種は、標準的に生後12～15か月に接種し、追加接種は初回接種終了後3か月以上（標準的には6か月から12か月に至るまでの間隔）あけて接種（合計2回）
 - 3歳から5歳未満の児（平成26年度限りの経過措置）：1回接種

4. 接種に関する注意事項

- 医師が診断したもの、あるいは、典型的な水痘の病歴のあるものは、水痘に免疫があると判断する。
- 診断が不確かな場合、水痘ワクチンを接種することが出来る。その際、ワクチン接種前に抗体価の検査は必要ない。過去の水痘の既往は、水痘ワクチン接種の禁忌とはならない。

5. 個々の対応事例

2014年10月の定期接種化の前段階で

- ① 水痘ワクチンを2回接種しているもの：接種完了、それ以上の対応の必要なし

- ② 水痘ワクチンを1回接種しているもの：
 - 1歳以上3歳未満：初回から3か月以上あけて2回目を接種（定期接種）*
 - 3歳以上13歳未満：初回から3か月以上あけて2回目を接種（任意接種）
 - 13歳以上：初回から4週間以上あけて2回目を接種（任意接種）

* なお、3歳未満で1回目の接種を行い、2回目がある場合は、2回目の接種は任意接種となる。

- ③ 水痘ワクチンを接種していないもの：
 - 1歳以上3歳未満：初回接種（定期接種）を速やかに行い、
初回接種から3か月以上あけて2回目を接種（定期接種）
 - 3歳以上5歳未満：初回接種（定期接種）後、
3か月以上あけて2回目を接種（任意接種）
 - 5歳以上13歳未満：初回接種（任意接種）を速やかに行い、
初回接種から3か月以上あけて2回目を接種（任意接種）
 - 13歳以上：初回接種（任意接種）を速やかに行い、
初回接種から4週間以上あけて2回目を接種（任意接種）

(文献1) Recommendations of the Advisory Committee on Immunization Practices (ACIP). Prevention of Varicella. *MMWR Morb Mortal Wkly Rep* 2007;56:1-40.